

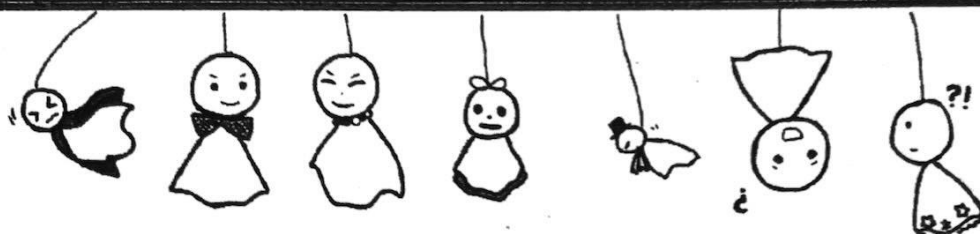
ぶどうの木



発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2024年 5月26日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778

第251号 2024年 6月号



『主の教会』

牧師 広田叔弘

すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

コリントの信徒への手紙一 11章23～24節

五旬祭の日に弟子たちが祈っていると突然、激しい風が吹いて来るような音が天から響きました。そして炎のような舌が分かれば分かれに現れ一人一人の上にとどまります。聖霊降臨の出来事です。このときから弟子たちの集まりは、聖霊を宿す「教会」となりました。

冒頭に掲げたのは、パウロが告げる主イエスの聖餐制定の言葉です。主は聖餐の意味を示して「わたしの記念としてこのように行いなさい」と言います。

不思議な言葉ではないでしょうか。イエスはこの時点で十字架の死を覚悟しています。これに先立って弟子の一人が裏切ることを予告しています。聞いた弟子たちは「まさかわたしのことでは」と、代わるがわるに言い始めました。この後のゲッセマネの園では、祈るイエスを目の前にして眠る有様です。つま

り弟子たちは、我が主が十字架に付くことも、行われている聖餐の意味も、分かっているはずなのに、このように行いなさい」と語ります。

このときの主イエスは教会を見ています。十字架に付き、復活を遂げます。この後五十年を経て聖霊が降り、弟子たちの集まりが教会となります。そしてこの教会で十字架の死と復活を記念し、救いの勝利を祝う聖餐が繰り返されていきます。主イエスは、死を前にしたこのとき、明日の教会を見ているのです。

教会は、最初に主の心の中に宿りました。そして聖霊降臨によって世に誕生した。今日の弟子である私たちは、最初の弟子たちと同じように聖霊をいただき、教会を形づくっていく一人一人です。目には見えないキリストが食卓に座ります。私たちも同じ食卓に座ります。ここで主の言葉を聴き、割かれたパンを食べます。感謝の祈りをささげ、賛美を歌います。これが教会です。そして私たちは、この教会から世に遣わされ福音を証します。神は愛であること、キリストは救いであることを指し示すのです。

一人一人が信仰を持つ以前から主に覚えられています。信仰を得た今日、教会の担い手となっています。この恵みを尊く受け止めましょう。私たちが主の教会そのものなのです。